

地域医療に関するアンケート

～団塊の世代が75歳を迎える2025年以降の地域の医療体制を考える～

《あなたの地域の医療について、アンケートにご協力ください!》

急速な少子高齢化の進行により、今後さらなる医療費の増加が見込まれており、現在、その対策が国の方針に沿って各都道府県で進められています。

奈良県では、県内5つの二次保健医療圏ごとの「地域医療構想」を策定し、団塊の世代が75歳を迎える2025年の地域医療に向けた「医療提供体制の在り方」について、あるべき姿の実現に向けた取り組みを行っているところです。

また、県におけるこの取り組みに関して、協会けんぽ奈良支部では、医療保険者の立場として、支部長が委員として県主催の会議に出席し、意見発信できることとなりました。

この意見発信につきましては、加入者の皆様がより適正な医療を迅速に受けていただくなど、今後も、できる限り加入者の皆様の視点に立った意見を発信したいと考えております。

そこで、協会けんぽ奈良支部では、地域医療の現況と将来について、加入者の皆様のご意見をお伺いし、よりの確な意見を発信するため、本アンケート調査を実施させていただくことといたしました。

つきましては、加入者の皆様の声を広くお伺いし、その集計を、奈良県をはじめ、医療関係者及び関係各方面に発信して参りたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

【ご記入にあたってのお願い】

1. ご記入は、質問の順番に沿ってお願いします
2. お答えは、当てはまる番号に○印をつけてください
3. 「その他」の番号に○印をつけた場合は、()内に具体的にご記入ください
4. 年齢は、平成30年4月1日現在でお答えください

◆このアンケートは無記名式です。

◆10月26日(金)までに返信用封筒にてご返送をお願いします。

(本アンケートに関するお問い合わせ先)

全国健康保険協会奈良支部 企画総務グループ

TEL : 0742-30-3702

「保健医療圏」・「地域医療構想」の目的や考え方などの説明を読んできながら、各質問についてお答えください。

問1 性別

1. 男性 2. 女性

問2 年齢

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代
5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳代以上

「保健医療圏」について

「保健医療圏（以下、「医療圏」と言います。）」とは、地域の実情に応じた医療を提供する体制を確保するために、都道府県が設定する地域単位のことです。①市町村を単位とする「一次医療圏」、②保健医療の基本単位としての「二次医療圏」、③全県を単位とする「三次医療圏」があります。

「二次医療圏」について

その中でも、「二次医療圏」は、地理・交通・人口・病院の配置などを考慮して設定された、病院などの医療提供体制を整備する際の基本的な地域の単位のことであり、現在、奈良県内には5つの「二次医療圏」があります（1頁 問3の1～5の地域）。

基本的には、入院診療を受ける際には、住んでいる「二次医療圏」内の病院を利用することが前提となっています。

問3 お住まいの地域

1. 奈良地域（奈良市）
2. 東和地域（天理市・桜井市・宇陀市・山添村・磯城郡・曽爾村・御杖村）
3. 西和地域（大和郡山市・生駒市・生駒郡・上牧町・王寺町・河合町）
4. 中和地域（大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高市郡・広陵町）
5. 南和地域（五條市・吉野郡）



奈良県における5医療圏域図

問10 <病院へのアクセスについてⅠ>

脳卒中や心筋梗塞など緊急性を要する場合、医療機関は最低限どこにあれば安心ですか。

(○は一つ)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 連絡してから30分以内でいけるところ | 2. 二次医療圏内にあればよい |
| 3. 特になし | |

問11 <病院へのアクセスについてⅡ>

小児やがん等の先進・高度・特殊医療を要するが、ある程度待てる(緊急性を要しない)場合、医療機関はどこにあれば安心ですか。(○は一つ)

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. できるだけ近い場所(30分くらいでいける) | 2. 二次医療圏内にあればよい |
| 3. 信頼できる大病院であれば二次医療圏にこだわらず行きたい | |

問12 将来的に高度な治療内容に対応した病院の配置については、どうなるのが良いと思いますか。(○は一つ)

- | | | |
|--------------|----------------|---------------|
| 1. 各地域に分散させる | 2. より一か所に集中させる | 3. 現状のままで問題ない |
| 4. よくわからない | 5. その他() | |

「地域医療構想」とは？

「地域医療構想」とは、高齢化や年齢構成の変化等により、医療ニーズが増加・変化するため、将来(2025年)のあるべき医療提供体制を推計し、それを実現するためのもので、各都道府県で策定されています。

奈良県においては、2016年3月に取りまとめられ、5つの二次医療圏(1頁 問3の1~5の地域)単位での「地域医療構想調整会議」等を通じて2025年の実現に向けた協議が進められています。

背景には、次のような課題があります。

1. 2025年には団塊の世代が75歳を迎え、医療・介護需要の増大や、慢性の病気を多く抱える患者の増加など、医療に対する要望の変化が見込まれます。
2. そのため、患者がその状態に見合った、より良質な医療サービスを受けられるよう、病院の機能を分けたうえで、各病院の連携を進める必要があります。
3. また、限りある地域の医療資源を効率的かつ効果的に活用し、介護も含めた地域包括ケアシステムを構築・推進していく必要があります。

問13 「地域医療構想」について、これまでご存知でしたか？(○は一つ)

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 知っている | 2. 聞いたことはあったがよく知らなかった |
| 3. 聞いたこともなかった | |

問14 奈良県では、2016年3月に「地域医療構想」が策定されていますが、その内容をご存知ですか。(奈良県の地域医療構想については、奈良県ホームページに掲載されています。)

1. 知っている 2. 聞いたことはあったがよく知らない 3. 知らない

「病院機能」について

「地域医療構想」では、将来必要な医療について、入院の際の病院の役割を4機能(※)に分けて推計を行い、これに対応するための体制の検討を行います。これは、各病院の役割を見えやすくし、役割に沿った医師や設備の配置を行うという考えに基づくものです。

(※) 4機能とは、

- ① 高度急性期機能…特に症状が重い患者を受け入れる機能(集中治療室など)
- ② 急性期機能……救急や症状が重い患者を受け入れる機能
- ③ 回復期機能……退院を目指し、リハビリなどを集中的に提供する機能
- ④ 慢性期機能……長期に渡り療養が必要な重度の障害者等を受け入れる機能

問15 入院の際の病院の役割を機能で分けることは、必要だと思いますか。(〇は一つ)

1. 必要 2. 必要でない 3. よくわからない

「入院ベッド数」の推計について

2015年7月に国がまとめた、2025年の推計では、病床の機能分化等が進まないと、入院のための病院のベッド数が過剰になることが見込まれています。これは、高齢化や人口の減少のため、上記「病院機能」の「②急性期機能」にあたる救急医療や、重症の患者に対する医療の需要が減る見込みとなっているためです。

一方、「③回復期機能」にあたる、リハビリなどを集中的に提供するための医療については、不足することが見込まれています。このため、2025年に向け、病院の改装や再編により、ベッド数を変更したり、機能を振り替えていく必要がでてきます。

問16 将来的に国内全体では、入院ベッド数が過剰になるという推計について、ご存知でしたか。(〇は一つ)

1. 知っていた 2. 知らなかった

問17 この推計により、医療の需要と供給のバランスを図り、ベッド数を変更したり、病院機能を振り替えていくことは必要だと思いますか。(〇は一つ)

1. 必要 2. 必要でない 3. よくわからない

問24 このアンケートを通じて「地域医療構想」について、興味や関心が高まりましたか。
(〇は一つ)

1. 高まった 2. 少しは高まった 3. 高まらなかった

問25 「地域医療構想」について、奈良県として、もっとわかりやすい情報発信が必要だと思えますか。

1. 必要 2. 必要でない

質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。

アンケート用紙は、10月26日(金)までに返信用封筒にて投函してください。
※切手は不要です。